

発行・編集 (公財)あしたの日本を創る協会／全国生活学校連絡協議会 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号 日本青年館  
TEL: 03-5772-7201 FAX: 03-5772-7202 E-mail: ashita@ashita.or.jp URL: http://www.ashita.or.jp/

### 生活学校運動50年によせて

全国生活学校連絡協議会会長 金山 富士子



生活学校が1964年に始まってから50年という節目の年を迎え、こうした記念の時期に全国の会長として務めさせていただいていることに責任の重さを感じています。

これまで、時代に即した地域課題を社会的に捉え、様々な問題解決に向け英知と努力の積み重ねにより、多大な成果を収めてこられた諸先輩の活躍が社会に認められ生活学校運動の発展につながり、全国の生活学校の存在と実績が大きく評価されてきました。

こうした実績は平成18年、あしたの日本を創る協会から発行されました創立50周年記念「私たちの50年」新生活運動・ふるさとづくり運動資料集に紹介されている活動事例からも知ることができ、時代の変化を的確に捉えた地域社会の在り方を実践活動の中から提言されています。

また、容器包装リサイクル法の改正を機に取り組んだ「レジ袋削減」に向けた活動は全国組織という特色を生かし、全国各地のイベント会場には可愛いウサギちゃんのロゴマーク入りのTシャツも登場し、全国一斉に取り組む画期的な運動を展開することができました。これは生活学校運動の新しいスタイルと存在を示した活動であったと思います。

この活動に向けての分科会でご指導頂いた助言者、白水忠隆氏の言葉が思い出されます。『みんなで

やろうよ、という気持ちが盛り上がりれば行動が起こせる。議論のための議論はいらない、実践活動で答えを出すこと』と説かれました。

次に全国大会「生活学校ルネサンス分科会」の中で、公益性のある発展的な取り組みを協議、東日本大震災後の復興支援活動「ひまわりアクリルたわし」を全国で販売、「義援金募金」活動と共に被災された方々を元気づける一助となる活動を実施することができました。これは、全国のメンバーの総意と日創協のご協力を得て活動システムの確立から被災者の支援とアクリルたわし生産の資材購入から指導、物品ストックと発送等、難題を“やる気”で乗り越え成功した活動です。

今年度から全生連が主体で取り組みます食品ロス削減全国運動は、各県会長を対象に行なった事前調査の結果からも63.9%の賛同を得て了承されました。活動対象は、一般家庭「生活者」の視点から食品ロス削減を行なうこと、実行委員を中心に意識調査の素案を作成、各県会長に諮り昨年11月意識調査を実施しました。現在までの回収率は、68.3%で、集計中です。その結果から活動の詳細について検討し、皆様からご意見やご提言を頂き実施に向け進めてまいります。ご協力お願いします。

|                   |   |
|-------------------|---|
| 平成25年度生活学校・生活会議運動 |   |
| ブロック研究集会在5ブロックで開催 | 2 |
| 活動や運営のご相談にお答えします  | 5 |

|                  |   |
|------------------|---|
| 新しい地域課題の取り組みに向けて | 6 |
| 全国生活学校連絡協議会から    |   |
| 「食品ロス」に関する言葉の解説  | 7 |

# 生活学校・生活会議運動ブロック研究集会在5ブロックで開催

## 東北・北海道ブロック

東北・北海道ブロック研究集会は、9月4日(水)～5日(木)、宮城県松島町「ホテル松島大観荘」において、「助け合い支えあう地域づくり」をテーマに開催。5県から157名が参加しました。

開会行事に続いて基調講演では、仙台市宮城野区福住町町内会会長の菅原康雄さんより、東日本大震災の経験を踏まえ、災害時相互協力協定の締結や、町内会のネットワークづくり、名簿の開示の大切さについて語っていただきました。

続いて四つの分科会に分かれ、第1分科会「震災復興支援活動と今後の課題」では、宮城県栗原市築館生活学校より「他団体と連携した復興支援活動」、宮城県仙台市泉ひまわり生活学校より「仮設住宅復興支援活動を実施して」をテーマにした話題提供をもとに協議を行ないました。

第2分科会「地域に広げる子育て応援活動」では、宮城県岩沼市生活学校より「子育て支援ボランティアに参加して」、宮城県仙台市松陵生活学校より「心豊かな青少年を育む地域をめざして」をテーマにした話題提供をもとに協議を行ないました。

第3分科会「環境にやさしいくらしの実践から～EM菌を利用した地域活動」では、宮城県柴田西住生活学校より「日常生活を見直し環境にやさしい暮らしをめざす」、宮城県角田市生活学校より「環境にやさしいくらしの実践から～コンポストによる生ごみ減量作戦～」をテーマにした話題提供をもとに協議を行ないました。



第4分科会「生活学校研修」では、当協会事務局より生活学校運動の歴史と成果、今後の運動に向けて説明を行なった後、参加者の活動状況と課題についてお話をいただき、今後の運動の進め方について協議を行ないました。

交流会では、地元宮城県の生活学校メンバーを中心にリフォームファッションショーが行なわれるなど、工夫を凝らした催しが披露されました。

開催地の松島町は、震災の影響が比較的少なかったようですが、近隣地域では今なお震災の爪痕が残っています。このような状況のなか、講師の菅原さんをはじめ、東北各県の生活学校・生活会議の皆さんから、震災の経験を踏まえて復興に着実に歩みを進めている現状を伺うことができました。

## 関東甲信越静ブロック

関東甲信越静ブロック研究集会は、9月3日(火)、新潟県長岡市「アオーレ長岡」において、「高齢化社会における連携と協働～多様な視点を活かして、私たちのあしたを語ろう～」をテーマに開催。1都9県から193人が参加しました。

開会行事に続いて、基調講演では「人生後半の充実を求めて」をテーマに、ハーブ工房・花花代表の小野庸子さんから講演がありました。

続いて、三つの分科会に分かれ、第1分科会「私らしく、あなたらしい生き方がし」では、新潟県村上生活学校より、古い衣類を再利用した、



リフォームファッションショーと活動報告が行なわれました。

第2分科会「コミュニティ・地域協働のすすめ方」では、糸魚川市大野地区コミュニティ協議会の事例発表をもとに意見交換が行なわれました。

第3分科会「地域活動推進研修」では、当協会事務局より生活学校・生活会議運動の歴史について説明を行ない、山梨県生活学校連絡協議会会長の石井直江さんから、これまでの生活学校の活動経験についてお話いただきました。

分科会終了後、再び全体で集まり、分科会報告のあと、当協会からの事業説明と質疑が行なわれました。最後に、三流亭楽々さんの落語「老婆の戦術」があり、振込詐欺防止などについて、以前勤務していた県警時代の経験を交えた豊富な話題で、会場の興味を誘っていました。

## 中部・近畿ブロック

中部・近畿ブロック研究集会は、10月2日(水)～3日(木)に、石川県金沢市「KKRホテル金沢」で開催。2府10県から210人が参加しました。

開会行事に続いて、基調講演では「地域づくり～仰天アイデアを生み出す秘密～」をテーマに、羽咋市文化財室室長の高野誠鮮さんから、従来の考えにとらわれないやり方で、限界集落を変えていった取り組みについて語っていただきました。

続いて三つの分科会に分かれ、第1分科会は、環境保全をテーマに、石川県尾口ホテルの会からは「生態系を守る～ホテルの里をめざして～」、石川県野々市生活学校からは「ごみ減量の取り組み」について実践発表がありました。

第2分科会「地域づくり～安全・安心な暮らし～」



では、石川県小松生活学校から「寸劇で高齢者の消費者トラブルを防ぐ」として寸劇の実演や、石川県美川生活学校から「おしゃれ茶会でいきいきと」をテーマにした実践発表がありました。

第3分科会は、「生活学校研修分科会」として、生活学校運動の基本的な進め方について当協会事務局より説明を行ない、全国生活学校連絡協議会会長の金山富士子さんの司会で、今後の運動の進め方について協議が行なわれました。

夜は、交流会があり、140人の方に参加いただき、全生連の総理大臣賞受賞の表彰状とともに記念写真を撮影、来年度開催県の兵庫県にもご挨拶いただくなど盛会となりました。その後、生活学校代表者会議が行なわれました。

2日目は、分科会報告と協議、当協会からの説明・質疑が行なわれました。

## 中国・四国ブロック

中国・四国ブロック研究集会は、10月28日(月)～29日(火)に、山口県美祢市「美祢市民会館」で開催。5県から45人が参加しました。

開会行事に続いて省エネルギーセンターエネルギー使用合理化専門員の北見幹治さんより「省エネ・節電のワザ」をテーマに講演があり、その後、市民会館前のS L広場で、参加者一同で記念撮影。

続いて二つの分科会に分かれ、第1分科会では、前半を「生活学校研修」として、当協会事務局より生活学校運動の基本的な進め方と今後の運動のあり方について説明を行ないました。後半は「東日本震災復興の取組 福島子ども達支援」として、山口県楠生活学校より事例発表。市内の団体と連携して、山口県宇部市において、福島からの移住家族



や児童との交流活動の紹介がありました。参加者からは「他団体と一緒に、生活学校がある部分を担っていくこともできるのでは」という提案もありました。

第2分科会「廃校活用と地域振興の取組」では、山口県秋芳八代振興会より「ぬくもりの里を中心とした地域の活性化」として、廃校になった小学校を地域のコミュニティセンターとして再生し、指定管理を受けている取り組みについて発表がありました。

分科会の後、会場を美祿グランドホテルに移し、交流会および各県生活学校代表者会議を行ないました。

2日目は、分科会報告と協議、および当協会からの説明・質疑を行ないました。

集会の企画・運営にあたっては、会場は市民会館、宿泊手配は参加者から直接ホテルへ連絡、企画会議は県内各地で離れたメンバーがメールをフル活用するなど、山口県生活学校・生活会議推進協議会には、限られた予算と人手の中で運営に最大限の工夫をいただきました。

## 九州ブロック

「あしたの日本を創る運動九州地区研究大会宮崎大会」は、10月16日(水)～17日(木)に、宮崎県都城市「都城グリーンホテル」において開催。7県から338名が参加しました。

開会行事に続いて、基調講演では「あすを創るのは誰？ その誰を育てるのは誰？」として、椎葉綾心塾塾長 綾部正哉さんより、教育者としての経験を踏まえ、地域のための生き方について提言をいただきました。

続いて四つの分科会に分かれ、第1分科会「地域づくり」では、大分県ひよこクラブ生活学校より「災害を経験して～地域の防災力を高めよう～」、福岡県だんぼっくる生活会議より「食を通しての地域づくり」について事例発表がありました。

第2分科会「高齢者支援」では、鹿児島県平川校区生活会議より「高齢者との絆～お互いに手を取りあって～」として高齢者の安否確認、宮崎県都城

第2生活学校より「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」として高齢者ふれあいの家の開設などについて事例発表がありました。

第3分科会「環境・省エネ」では、長崎県さつき生活学校より「環境問題とごみ減量」や子育て支援活動、熊本県あらお凧の会より「市民が参画していくまちづくり」として女性の視点から行政に提言してきた取り組みについて、事例発表がありました。

第4分科会「生活学校研修」では、当協会より生活学校運動の基本的な考え方と今後の運動の進め方について説明を行ない、大分県生活学校運動推進協議会会長の小野ひさえさんからは、これまでの生活学校の活動経験を踏まえた助言をいただきました。

レセプションでは、宮崎県の河野知事、都城の池田市長をはじめ多くの来賓の参加をいただき、太鼓のアトラクションもあるなど、華やかな会となりました。最後に、来年度開催の大分県から挨拶をいただきました。

2日目は、分科会報告と協議、および当協会からの説明・質疑を行ないました。最後に、九州地区研究大会表彰式が行なわれ、6県8人の方が受賞されました。

開催担当の都城市生活学校連絡協議会では、「生活学校協力会員」制度を設け、市内の企業やホテルに加盟いただいております。今回の大会でも、会場や運営面で様々な支援を得ながら開催。生活学校の活動が市内に幅広く浸透している様子をうかがうことができました。



## 各地のブロック研究集会でお伺いした活動や運営のご相談にお答えします。



皆さまから寄せられた活動や運営のご相談についてお答えします。ご不明な点がありましたら、随時、相談室 **0120-839-123** までお気軽にご連絡ください。

### 1. 生活学校と行政との良好な関係が構築できるように、行政に働きかけてほしい。

当協会では「生活学校への支援のお願い」として文書を作成し、平成26年2～3月頃に、各生活学校代表者宛に送付する予定です。

これは、市区町村の地域活動担当課宛に、公共施設等の情報、地域活動団体向けの補助金事業の情報提供、活動の広報誌への掲載等、生活学校の活動への支援・協力を呼び掛ける内容となっています。

はじめに、この文書を持参して地元の市区町村に足をお運びいただき、生活学校の活動内容をお話ししたうえで、協力をお願いしてみてください。必要があれば当協会からも連絡いたします。

### 2. 協会から送られてきた市町村の助成金情報の関係で、市役所の担当課（協働推進課）に顔を出したところ、自分たちの活動に対する助成金はないと言われた。

ご相談を受けた生活学校の地元市役所に、当協会から確認したところ、現時点では申請時期が終了しているものの、来年度の募集の際は、改めて広報で通知するので、ご相談にもものれるとのことでした。

また、担当課以外の課で補助事業を実施しているケースもありますので、併せて相談してみてください。

### 3. 県への予算要求は4月初めのため、協会からの事業の提案は2月下旬までにしてほしい。

26年度の事業については、2月中にお知らせする予定です。また、26年度の全国大会・ブロック研究集会等の事業日程については、現時点の予定をp.8に掲載しましたのでご参照ください。

### 4. 全国大会・ブロック研究集会への旅費助成を増やしてほしい。

ブロック研究集会については、当協会から、各県生活学校および生活会議につき、1名分の旅費を助成しております。

全国大会については、予算的な制約もあることから、旅費助成は行なっておりません。

全国の生活学校の中には、地元自治体の行政バスを利用したり、物産品の共同購入による益金を積み立てて、旅費に充当するといったところもありますので、ご検討をお願いします。

### 5. 「食品ロス削減アンケート」について、県内でのアンケート用紙送付・回収にかかる経費について負担してほしい。

この経費については、全国生活学校連絡協議会で負担します。県内でのアンケートのとりまとめにかかった費用については、領収書をまとめて、全国生活学校連絡協議会宛てにお送り願います。26年度の総会においてお支払いします。

## 平成25年度「生活学校研修講座」を全国12道府県において開催

当協会職員が出向き、生活学校運動の歴史や特色、課題、活動テーマなどについて説明した後、参加者との間で、活動や運営の現状と課題について話し合いました。本講座は、県大会や研究集会のプログラムとして、また、県内生活学校の活性化を目的とするなど、各県の状況に応じた開催となりました。

### 開催地・日程

|           |          |          |          |          |           |
|-----------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| ■ 北海道北広島市 | 10月9日(水) | ■ 福井県福井市 | 7月2日(火)  | ■ 大阪府大阪市 | 11月26日(火) |
| ■ 秋田県秋田市  | 9月29日(日) | ■ 静岡県浜松市 | 1月21日(火) | ■ 愛媛県松山市 | 12月9日(月)  |
| ■ 茨城県水戸市  | 5月20日(月) |          |          |          |           |

この他、ブロック研究集会の分科会として、宮城県、新潟県、石川県、山口県、宮崎県の5県において開催しました。

6. 他団体から補助を受けて事業を実施しているが、半額助成のため、協会からの助成を合わせることは可能か？

当協会としては、他団体から助成を受けている事業であっても、並行して助成することは可能です。「新しい地域課題」「全国運動」などの当協会の助成を申請してみてください。但し、他団体の助成条件を必ず確認してください。

7. 廃校の話が出ており、県生連会長が現地に行って説得しているが、高齢化で継続が難しいため苦慮している。

当協会では、生活学校の継続に悩む生活学校に出向き、相談にのっていただいた場合にかかる交通費等について助成をしています。

また、高齢化に伴う活動については、例えば、メンバーご自身の日常生活の中で困っていることを話し合い、行政や業者に改善の問題提起をするといったこともあると思います。また、他団体と連携して活動し、自分たちができる部分について担当するといったことも考えられます。

8. 各県の大会において、協会から事業説明をしてほしい。

各県における26年度の事業日程が決まりましたら、当協会までご連絡ください。県大会・研究集会等の日程に合わせて、当協会から事業内容について資料をお送りします。

できれば、県協議会から概略だけでもご説明いただければ幸いです。

また、当協会職員からの直接の説明を希望される場合は、当協会までお問い合わせください。

## 新しい地域課題の取り組みに向けて

女性の視点から  
地域の防災を考えてみましょう！

もしもの時の災害に備えて家庭や地域での防災対策が大切です。

災害が発生したとき、普段の生活は様々な制約を受け、避難所の生活では女性はトイレなどのプライバシー面での制約も大きくなります。日ごろの備えに、生活者の視点に立った女性のきめ細やかな配慮が必要です。

そこで、皆さんの地域では次のような防災対策が取り組まれているか、今一度確認してみましょう。

- ① 備蓄品や備蓄倉庫を女性の視点から確認しましょう。
- ② 避難所の設備を女性の視点から確認しましょう（トイレ、着替えスペース、乳幼児対策、女性の担当者の配置など）
- ③ 避難所の運営責任者に女性を配置して、公平な作業分担が図られるか確認しましょう。
- ④ 高齢者や障がい者、妊産婦等の要援護者の救出・救護体制を確認しましょう。
- ⑤ 要援護者のための「福祉避難所」の体制を確認しましょう。
- ⑥ 災害時に役立つ非常食レシピ集を作りましょう。

上記の確認を踏まえて、生活学校・生活会議、自治会町内会、自主防災組織と「地域の防災対策」について話し合い、女性の視点を地域の防災対策に反映させましょう。



## ファミリーコスロン



交換用フィルター  
(30個) 1,000円

油を捨てない  
オイルポット

ファミリーコスロン  
(フィルター10個付) 3,500円

油をムダなく使う道具

使い方簡単：少し冷めた油を入れ  
継ぎ足し使用するだけ

静岡県生活学校連絡協議会が  
推進しております

<連絡先>

平松 節子

TEL 053-461-6966

FAX 053-461-6969

<http://www.rakuten.co.jp/marugo/info.html>

## 「食品ロス」に関する言葉の解説

「食品ロスに関する実態調査のお願い」のアンケートにご協力いただきまして有難うございました。ご要望がございましたので、アンケートにも掲載しました言葉の解説を本紙でもご紹介します。

### ■「食品ロス」とは

食べられる状態であるにもかかわらず廃棄される食品。小売店での売れ残り、期限切れ、製造過程で発生する規格外品、飲食店や家庭での食べ残し、食材の余りなどが主な原因。

食品メーカー、小売店からの食品ロスには以下のようなものがある。

- ・新商品販売や規格変更に合わせて店頭から撤去された食品(定番カット食品)
- ・欠品を防止するために保有するうち、期限切れなどで販売できなくなった在庫
- ・定番カット食品や販売期限切れ食品等の慣行的な返品
- ・製造過程で発生する印刷ミスなどの規格外品



※販売期限とは、小売店が商品管理の必要性から独自に設定する、店頭で商品を販売する期限のこと

### ■「3分の1ルール」とは

食品業界にある商習慣。例えば、賞味期限が3ヶ月の商品の場合、①食品メーカー・卸業者から小売店への納入までを1ヶ月、②小売店から消費者に販売するまでを1ヶ月、③消費者に渡ってから賞味期限が切れるまでを1ヶ月—というように製造から賞味期限までを3分の1ずつに区切り、①と②はそれぞれの期限を過ぎると、廃棄されたり返品されたりしている。

### ■「ドギーバック」とは

ドギーバックは、レストランなどで食べ残した料理を自宅で飼っている犬に食べさせるという名目で、お客自身が自宅で食べる為に自己責任で食べ残しを持ち帰るために用いられる、袋などの容器の総称。したがって、どのようなドギーバックに何らかの決った形式があるわけではなく、店によってまちまちであるが、アメリカでは大抵のレストランでドギーバックが用意されている。

ところで、店で料理が出された段階で食中毒が起こるような状態であった場合は、その料理を出した店側の責任であり、店には賠償責任が発生する。

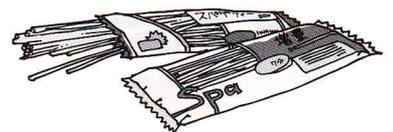
しかし、ドギーバックで持ち帰った場合、仮に家に帰ってから食べたために(調理されてから時間が経過したために)料理が傷んでしまった(食中毒の原因になる細菌数が増加してしまった)結果食中毒を発症したとしても、それは自己責任であって店は責任を取らない。店はあくまでも「残飯を犬に食わす」ために持ち帰ったものを食べてしまったからという建前を取り、また客も店が責任を取らないことは予め承知の上でドギーバックを使用する。もちろん通常は家に持ち帰ってから食べても食中毒などの問題は起きないために、アメリカではこのような習慣が広がった。

### ■「フードバンク(食べ物の銀行)活動」とは

賞味期限が間近となった食品や、食品衛生上問題がない規格外品は、規格外品の性質を理解してもらえ小売店での販売や、フードバンク活動への寄贈など、できるかぎり食品として有効に活用することから、フードバンク活動が実施されるようになった。

包装における破損や印字ミスなど、食品としての品質には問題がないが通常の販売形態では支障がある食品・食材を、食品メーカーや小売店などから無償で譲り受け、福祉施設・ホームレス支援団体・生活支援施設等へ無償提供するボランティア活動のこと。東京を皮切りに、兵庫、広島、沖縄などへと活動の輪が広がっている。

フードバンク活動は「もったいない」という世論の後押しを受け、今後もっと大きなうねりとなると共に、社会的弱者の命を支える重要な取組みといえる。(次頁に続く)



■ 賞味期限・消費期限の違い

|       | 賞味期限   | 消費期限            |
|-------|--|-----------------|
| 意味    | おいしく食べることが出来る期間のことで、この期間が過ぎてても、すぐに食べられないということではない。 | 期限を過ぎたら食べない方がよい |
| 表示    | 3ヶ月を超えるものは年月で表示し、3ヶ月以内のものは年月日で表示している               | 年月日で表示          |
| 対象の食品 | スナック菓子・カップめん・缶詰                                    | 弁当・サンドイッチ・生めん   |

※開封する前の期限を表しており、一度開封したら期限に関わらず早めに食べましょう！

平成25年度

エイジレス・ライフ実践者及び  
社会参加活動事例

選定者・団体名(推薦協議会名)

● エイジレス・ライフ実践者

黒崎 啓 サークル穂波生活会議  
(公益社団法人東京のあすを創る協会)

浦 澄子 金沢生活学校  
(石川県新生活運動協議会)

● 社会参加活動事例

なんでもやろう会  
(あしたの日本を創る岩手県協議会)

さくら国際フレンドシップクラブ  
(栃木県コミュニティ協会)

大和生活学校  
(あすの兵庫を創る生活運動協議会)

特定非営利活動法人  
大分県人材育成・文化交流協会  
(大分県生活学校運動推進協議会)

平成25年度

あしたのまち・くらしづくり  
活動賞が決定

生活学校、生活会議からは以下の団体が受賞しました。

【振興奨励賞】

東京都大田区 あおば生活学校

愛知県幸田町 幸田町生活学校

山口県下関市

住みたくなるふるさとづくり実行委員会



平成26年度事業予定

生活学校・生活会議運動全国大会 7月 9日(水)午後 表彰式、分科会、交流のつどい  
全国生活学校連絡協議会総会 7月10日(木)午前

ブロック研究集会(予定)

| ブロック   | 開催地                           | 日程             |
|--------|-------------------------------|----------------|
| 東北・北海道 | 山形県・鶴岡市「ホテル八乙女」               | 9/3(水)~4(木)    |
| 関東甲信越静 | 東京都内                          |                |
| 中部・近畿  | 兵庫県・神戸市中央区「チサンホテル神戸」「ルミナス神戸2」 | 10/29(水)~30(木) |
| 中国・四国  | 愛媛県・松山市                       | 10月下旬~11月を予定   |
| 九州     | 大分県・大分市「ホルトホール」               | 10/16(木)~17(金) |